

米国撤退とタリバン・パキスタン関係の行方

daijiworld.com

Aug 08 2021

Why US strategy in Afghanistan failed against Taliban-Pak nexus?

Maj Gen SB Asthana

この記事は、ムンバイの国際情報紙「daijiworld」から拾ったものです。著者はインド国軍の少将で、進歩的傾向はまったく無く、もっぱらパワー・オブ・バランスの面から評価しています。

インドにとって最大のライバルであるパキスタンの動向に、もっぱら関心が向いていることが分かります。ただ欧米の報道からは見えない側面に光が当てられていて勉強になります。Pakは正式の呼称でないかも知れませんが、一応そのまま掲載します。

端的に言えば、未来も過去と同様に暗いものだと言えますが、外国の支配が消滅した点では一歩前進なのかも知れません。

国連の使節は安保理に、アフガニスタン戦争が破壊的な段階に入ったと報告した。

米国は、アフガニスタンでの軍事任務の終了にあたり「対テロ戦争の任務完了」と宣言した。それは恥ずかしい言い訳であらう。

タリバンは日々領土を獲得し、占領地に恐ろしい弾圧を課している。それは世界的なテロの復活が始まったことを意味する。

他の地域の利害関係者は懸念しているが、無力に見守っているだけだ。

将来の可能性を推測するには、アフガニスタンに直接関与している3つの勢力の戦略を批判的に分析する必要がある。

なぜ米国はアフガニスタンで敗れたのか

米国は、オサマ・ビンラーディンとアルカイダを保護したタリバン政権を駆逐することを目的としていた。彼らの軍事的目的は、アフガニスタンのテログループが再び本土を襲う事のないよう弱体化させることだった。

アフガニスタンの平和と開発は、彼らの主な目的ではなかった。

パキスタンとの関係

パキスタンはタリバンや他のテログループへの支援を行っていた。周知のごとく、タリバンの生みの親はパキスタン軍である。

米異国はそれを十分に知っていたにもかかわらず、パキスタンの「二股膏薬」を黙認した。兵站チェーン、諜報活動の拠点をパキスタンに依存しなければならなかったからである。

戦闘の経過

米国は戦争の原則に従ってタリバン体制を撤廃し、民主的に選出された政府を復活させ、ビンラディンとアルカイダを排除した。

しかしその後、軍事力だけではワッハーブ派のイデオロギーを排除できないことを認識せざるを得なくなった。

宗教的原理主義の問題に対して、軍事的解決策だけで解決を図るのは戦略的な間違いだった。

多国籍軍(MNF)は、都市部に依拠し、技術と空軍力によってタリバンと戦っていたが、それは逆効果だった。

地方で空爆の巻き添え被害が1つ起きれば、無実の人々の殺害は、多くのテロリストの誕生につながる。そして原理主義者の思想を強化することになる。

戦闘の倦怠感と本国への政治的配慮が、MNFの撤退への欲求を駆り立てた。

こうしてタリバンとの米国の偽の和平交渉が持たれたが、それは米国の侵した第二の誤りであった。それはタリバンをテロリストの地位から解放し、政治的実体として正当化した。

最大の受益者は、パキスタン軍

米国は一貫して、テロリストに対するパキスタン軍の支援を過小評価してきた。このため、パキスタン軍はアメリカによる金銭的援助と軍事支援の主要な受益者となってきた。

パキスタンの功績は、最終的に米国とMNFが敗北するのを助けたということである。

にもかかわらず、米国はパキスタンに依存し続けており、パキスタンが再び必要になるかもしれないと期待している。

なぜなら米国はこの地域において、パキスタン以外の一切の影響力を失ったからである。

20年間の戦争の後、米国は2,400人の兵士、3兆ドル以上を失い、戦略的空間、パキスタンの基地を失い、アフガニスタン-パキスタン地域から一切の軍事的影響力を失ったことになる。

それは60年代のベトナム戦争にも匹敵する軍事的惨敗である。

タリバンの再建戦略

タリバンは、MNFとの戦争に敗れた後、いくつかの教訓を学び、農村部で生き残った。

その間、パキスタンの全面的な支援を受けた。

MNFが疲れ始めたとき、タリバンは地方で戦線を拡大し始めた。安全な聖域には指導者の何人かを迎えた。

タリバンは、米軍の戦闘づかれとその政治的影響に巻き込まれ、米国政府に話し合いを促し、不可欠なアクターとしての正当性を確立した。パキスタンの調停はタリバンに有利なものだった。

交渉の席で、タリバンは 5000 人の「捕虜」の釈放要求を出した。米国はアフガン政府に圧力をかけ、これを認めさせた。タリバンの戦力は一気に強化された。

戦闘のイニシアチブがタリバンに

米軍は、荒れた地形や歩兵が支配する作戦を避けて基地からの作戦に絞った。空爆とドローン攻撃は、タリバンの影響力の増大を防ぐには不十分であった。

タリバンは米国との停戦協定を進行させる一方、農村地域の占領を強化した。

彼らは至る場所の国境地帯に進出し、アフガニスタン国防治安部隊(ANDSF)を孤立させた。タリバンの戦略的勢いは改善され、戦闘のイニシアチブを握るようになった。

パキスタン軍は軍事教員を動員してタリバンを指導し、10,000 人以上のテロリスト(IS・アルカイダ)にパキスタン国内を経由・迂回させ、タリバンのもとに送り込んだ。

タリバンの戦略的目標

タリバンの現在の戦略的目標は、選挙を戦うことなく、彼らの条件で権力構造に入ることである。そのために最大の領土を獲得した後、交渉のテーブルに最大の圧力をかけようとしている。

彼らは、過去 20 年間に民主主義に慣れてきた大衆の支持がないことを認識している。

したがって、タリバンは、彼らに有利な政治的解決のための最良の選択肢として、話し合いと攻撃を同時並行で行うことで政権獲得の道を開こうとしている。

タリバンは中国指導部との交渉にも成功し、ウイグルの独立運動を支持しないという約束と引き換えに、承認を得ようとしている。

「人々の願望を満たす」という穏健派のポーズは、すでに反故にされつつある。占領地の男性は髭剃りと喫煙の自由を失い、女性は自由を失う。

タリバン占領地では、タリバンの戦闘員と結婚させるために、15 歳から 45 歳までの独身の女の子のリストが作られている。

アフガン「政府」のこれから

ガニ政権と政府軍は、軍事戦略では勝つことはできないが、敗北を遅らせることができる可能性はある。武器、戦略物資の量ではタリバンを圧倒している。

彼らがファイティングポーズを取って、地上戦に真剣に取り組むなら、空軍力の効果的な使用、および健全な戦略によって士気の低下を改善し、タリバンに対する流れを変える可能性も消えていない。

これからのパキスタンの役割とタリバンとの関係

タリバンと手を組み、ガニ政権を崩壊させ、この戦略的地域で中国と軍事的関係を構築するというパキスタンの戦略は、これまでのところ順調に進んでいる。

ソ連と米国が敗北し撤退した後、残された最後の大国となった中国は第三の失敗者となることを恐れている。

そのためこれまで以上にパキスタンを前面に立て、その後方から影響力を拡大しようとするだろう。

このため、タリバンに対するパキスタンの影響はさらに強化されるかも知れない。

しかし権力をにぎったタリバンは、強硬路線を取り、将来も同様のスタンスをとる可能性が高い。

数え切れないほどの難民の流出と、より過激なテログループが出る危険もあり、これらは懸念事項である。

タリバンの力が成長するにつれて、パキスタンを攻撃するようになる可能性もある。パキスタンの二股外交のために、これまで何度も煮え湯を飲まされてきたからだ。